

# 介護に遊びと芸術を

老健たいよう・桂さん講演 「生活に活性化」

釧路専門学校介護公開講座「介護を潤す遊びと芸術」が15日、釧路市鳥取コミュニティセンターで開かれ、介護老人保健施設「老健たいよう」の作業療法士桂裕二さんが、要介護者の生活の質を高める「アクティビティ・ケア」の実践例などを紹介した。



「老健たいよう」の取り組みを紹介した桂さん

「アクティビティ・ケア」とは、芸術や遊び文化を通じて高齢者の心に栄養を与え、生活を活性化させる手法を指す。桂さんは、資格認定機関の高齢者アクティビティ開発センター（東京都、代表・多田千尋東京おもちゃ美術館館長）の中級講座修了者に認められる

「アクティビティ・ディレクター（AD）」の資格を持つ。

この日は学生など80人余りが参加。桂さんは、人間に必要な心の栄養について説明し、「老健たいよう」でのADの取り組みを紹介した。同施設では認知症専門棟で「スナックまゆみ」を開店。看板や道具などを用意してスナックの雰囲気を出し、ノンアルコールの飲み物を提供した。スタッフがもてなすと、高齢者は雰囲気酔って楽しんだという。

桂さんは「ADは全国に約500人、道内には3人しかいない。高齢者の生活を活性化させるために、ぜひ挑戦してほしい」と呼び掛けていた。